平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272100221		
法人名	社会福祉法人　旭　悠　会		
事業所名	グループホーム　メタセ		
所在地	千葉県習志野市新栄1-10-2		
自己評価作成日	平成22年9月26日	評価結果市町村受理日	平成22年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ＶＡＩＣコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4　千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で居心地の良い生活環境を整え、生活に刺激のある行事や外出・一人ひとりの生活史を参考にし、馴染みのある場所に出掛けるなど日々の『楽しみ』を提供しています。
現在平均年齢88.4歳と高齢ではあるがメタセの特色である日々の散歩を欠かさず行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

介護老人福祉施設やデイサービス等複数の事業所がある複合施設の中にあり、この施設のシンボルとなっているメタセコイアの木から名前をとったグループホームである。職員が元気で、入居者とのコミュニケーションもよく取れており、明るい風通しのよいホームには笑い声が絶えない。散歩が日課になっており、個別に出かけている。調査当日は、入居者総出で、にぎやかに昼食の準備をしていた。入居者のできることやしたいことを把握し、日々の生活で活かせるように工夫をしている点は特に優れている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、共有している	職員は出勤時には必ず理念の掲示されているスタッフルームに寄ることになっている。「入居者おひとりおひとりの豊かな人生経験と尊厳を重視する」等の理念は職員によって実践されていると思われるが、折に触れ全員で確認する機会を持つことも期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加・施設の行事を開催する以外交流はない	地域との交流は兼ねてより懸案事項であり、昨年度の目標達成計画にも挙げられているが、目標としていたボランティアの受け入れを実施することができた。今後も引き続き、日常的な交流ができるように工夫していくと、よいと思われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての取り組みは、現在行ってない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は感染症などの影響や人員不足・メンバーの日程が合わずに回数が減少した	前年度はインフルエンザ等の影響で開催が少なかったが、今年度もまだ開催ができていない状況である。これまでの会議の内容は、殆どがホームの行事報告で終わっている。	会議の議題やメンバー構成など、ホームにとってより意味のある運営推進会議になるよう、振り返る必要があると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要があれば連絡は取るが、日頃から連絡を密に取ってはいない	主として法人が市町村と連携している。ホームは必要に応じて参加している。	ホームがより地域に根差して運営するにあたり、積極的に市町村へ働きかけて行くと、さらによいと思われる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で開催される研修で学んでおり、身体拘束に関する資料をスタッフルームに置き理解を深めている	玄関等の施錠を含め、身体拘束はしていない。外に出る入居者がいれば職員が声かけし、一緒に散歩にいくなどしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で開催される研修で学んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で開催される研修で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を含め、丁寧に説明をして同意を得るようにしている。また事業所の方針や解約をする際は十分な話し合いをし理解・納得を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常のコミュニケーションで、家族には面会時に意見や要望を伺っている	新年会・納涼祭・敬老会と家族が集まる機会が年3回あり、その時に意見を聞くようにしている。それ以外にも家族の面会時には声をかけて、話しやすい雰囲気をつくるようにしており、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署の相談員・主任クラスが現場の意見を持ちよる相談員会議やミニ責任者会議・責任者会議等によって、職員の意見を参考にしている。	職員が意見を言いやすい環境ができており、連絡帳を使っての提言もある。しかし、職員全員が集まる会議の開催がない。	忙しい中で定期的に会議の時間をとることが困難であることは理解できるが、職員が全員集まって、運営等について意見を言える場をつくることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から職員に声をかけ、面接をするなどして各自の思いを把握し、必要に応じて環境や設備の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として年間計画の中で研修、勉強会などで学んでいる。又外部の研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市ではあるが、職員間交流・施設見学を実施		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とゆっくりと会話する時間を設け、コミュニケーションを取り安心して頂けるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とゆっくり会話する時間を設け、安心と信頼を得られるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を聞き、必要ならば他サービスなどの説明を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の出来事や料理を教えて頂くことで、対等な立場を保っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居しても本人と家族の絆を大切にする為、家族との情報交換を密にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂き今まで住んでいた家に帰る･墓参りなど馴染みの習慣を継続できるように支援している	家族に協力を依頼し、入居者がこれまで住んでいた家に行って草むしりをしたり、行きつけのおそば屋さんに行ったりと、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し必要に応じて見守り声掛けを実施している		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した利用者との継続的なかかわりは無い		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から利用者と積極的にコミュニケーションを取り会話していく中で、暮らしの希望・思いを把握している	食後や夜にゆっくりとお茶を飲みながら会話し、職員が入居者の思いをくみとっている。面会時には、家族から聞き取りも行い、本人本位のケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との日々の会話の中から生活歴・馴染みの暮らしを把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録やミーティングなどで情報を共有し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に本人の様子などを報告し、意見を頂く。職員はケース記録・ミーティングなどで意見を出している	詳細なケース記録作成を実施しており、連絡ノート、業務日誌などをもとに担当者が介護計画を作成している。多くの記録を参考にしているが、職員全体で話し合う会議の開催がない。	丁寧な記録を作成してはいるが、チームで意見交換する場があると、さらによいと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の暮らしや気づきを記入している 全職員はケース記録を確認し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族が発する様々なニーズに対し、職員が柔軟な対応をしている(一時的な歩行器・車椅子の利用など)		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人･家族との会話の中から馴染みの場所や好みを把握し、地域資源である公園散策や祭や地域の行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人･家族の希望する医療機関で受診している 家族の付き添いが困難な場合は職員が受診の付き添いを行う 協力病院の受診も可能	家族の協力を得て、かかりつけ医への受診を支援している。緊急の場合等、家族が同行できないときは、職員で対応している。夜間･緊急時には協力病院に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態は併設の看護師と相談しながら健康管理を行っている 24Hオンコール対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はできるだけ病院にへ行き病院関係者と情報交換をする 入院する場合に備えての関係作りは積極的に行っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての十分な話し合いは出来ていないが、状態の変化があった場合には相談･支援を行っている	入居者の状態変化に応じて、その都度、家族と話合う場をもつようにしている。医療行為が必要ない入居者を看取った例もある。しかし、家族の要望とホームが提供している支援にギャップがあるように思われる。	今後入居者の年齢が上がるにつれ、重度化や終末期対応を視野に入れる必要がでてくる。改めて、法人本部･職員･家族･医療機関等と話し合い、ターミナルケアの方針確認をすることが促される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の勉強会･訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練は年に3回行っている 併設の偕生園が地域(近隣町会･日本大学)と協定を結んで協力体制を整えている	年3回の防災訓練を実施し、夜間想定の訓練も行っている。また、町会･ホームの前にある大学とも防災協定を結んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を職員一人ひとりが心掛けている	丁寧な言葉かけや対応を心掛け、誇りを損ねないようにしている。法人内にマナー向上プロジェクトが設置されており、職員が気づかされることも多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、散歩などの希望があれば対応したり、決定事項(嗜好･外出･入浴等)には本人の意思を促す支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな時間の流れの中で、本人の希望にあわせた過ごし方をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服は本人で考えている 介助が必要な方は職員と一緒に服を選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の準備･片付けを行っている 食事中も会話が絶えず明るい食卓になっている	職員と利用者が一緒に食事作りを楽しんでいる。職員は利用者の出身地や子供の名前、好みなどをよく把握していて会話を盛り上げ、楽しい食事風景になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週に2回の手作り献立以外は、併設の厨房より食事を頂いている。職員も一緒の食卓を囲むことで入居者の摂取量が少なめの時は声掛けするなどの支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きへの声掛を行っている 本人の状態に応じて職員が介助に入っている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し理解した上で、定期的なトイレ誘導を行っている	基本的には全員が自立しているが、必要に応じて声かけもしている。また、失禁があった場合も、さりげなく介助することを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や水分量に注意しながら、出来るだけ自然排便できるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度時間は決められているが、その中で本人のタイミングに合わせて声掛をし、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している	お風呂は毎日沸かし、2日に1回は入浴するようにしている。本人の意向を尊重しており、拒否の人にも声かけを工夫して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠る前に温かい飲み物を飲んだり、他者と談笑することでリラックスして頂き気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋を確認し、内容を把握している 誤訳の無いように2人以上の職員でチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、役割分担をしている 外食時は好きなものを選んで頂く 外出時はどこへ行きたいか皆で話し合い決めることもある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩への声掛けは日常的に行っている 本人の希望の場所へは職員・家族が協力して支援している	毎日の散歩の他、皆で希望を出し合い、イチゴ狩りやぶどう狩りに行くこともある。食材の買出しに職員と一緒に出かけたり、浅草や船橋駅近くのデパートなど希望に添って外出支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の管理は施設で行っているが、小遣い程度のお金を所持している方もいる 買い物では職員付き添いの元支払をすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のレベルに合わせて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の飾りは皆で作り、玄関やフロアに飾っている	共用空間は明るく清潔で、風通しがよく、ゆったりとした居心地のよい空間である。ススキが活けてあり、季節が感じられた。また、オープンキッチンなので、食事を準備する匂いがしてきて、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者同士がテレビを見たり、玄関先のベンチで涼んだりして過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けの家具は無く、本人の使い慣れた家具や思い出の品などを飾っている	居室には仏壇や箪笥、ドレッサーなど好みの家具を置き、家族の写真や好きな植物など飾り、居心地良く過ごせるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており安全に動けるようになっている。それぞれの居室にネームプレートやトイレの場所を示すプレートを付けている		